

平成 26 年度 第 2 回日本粘土学会常務委員会議事録

日 時：平成 26 年 2 月 1 日(土) 13：00ー15：00

場 所：早稲田大学理工学キャンパス 55 号館 S 棟 4 階 407 室

出席者（敬称略）

山田、黒田、八田、佐藤、志々目、篠原、鈴木（正）、田村、中川、
日比野、宮脇、山崎、土信田 書記：鈴木（憲）

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況（鈴木（正））：第 52 巻 2 号ならびに第 53 巻 3 号の発行予定、現在の原稿受付状況に関して報告された。粘土科学投稿用フォーマットについては年度内にホームページ上にアップすることを目指している。また編集委員の査読回数の増加のため、増員を予定していることが報告された（別紙）。
- (2) Clay Science の発行・編集状況（八田）：編集・発行状況について報告があった。Clay Science への投稿が強く要望された（別紙）。
- (3) 会計（志々目）：平成 26 年度会計中間収支状況（別紙）について、現在のところ順調に推移しているとの報告がなされた。
- (4) 行事（中川）：第 57 階粘土科学討論会の開催報告・会計報告が別紙に基づいてなされた。前日の台風にもかかわらず欠席者は 1 名であり盛会であったことなどが報告された。
- (5) 国際協力（佐藤）：AIPEA に送るニュースレター（別紙）が紹介された。CMS の第 51 回大会においてアジアセッションが計画されているので、会員の発表の要望があった。
- (6) 企画
 - ① 標準粘土（宮脇）：2013 年 9 月以降 14 件の依頼があった旨報告された。web に頒布終了のセリサイトが掲載されているため、頒布希望がきており、早急な web の訂正が要望された（頒布終了とする）。また、セリサイトについて新しい供給元を考える必要があるとの意見が出された。現在標準粘土頒布の協力企業の担当者を含めた委員による標準粘土に関する委員会を作りたいとの意見が述べられた。
 - ② シンポジウム（日比野）：第 57 回粘土科学討論会のシンポジウム特集は原稿が集まり、編集委員長に提出した旨が報告された。
 - ③ ホームページ（八田）：特になし。
- (7) 庶務 会員動向（土信田）：会員の動向に関して事務局から報告があった（別紙）。
- (8) 連合等（山崎）：特になし。
- (9) 事務局（土信田）：共催・協賛について報告があった（別紙）。
- (10) その他

- ① 宮脇委員から北川コレクションの今後の予定について紹介があった。

2. 審議事項

(1) 第 58 回粘土科学討論会について (鈴木 (正)) : 別紙をもとに以下の件について審議がなされ承認された。

- ① 大会期間は 9/24~9/27 とし、9/24 には企業向けのセミナーを開催する。
- ② 通常の大会と異なり実行委員会の中心となる担当機関がないので、運営を常務委員・評議委員が中心となり行う。
- ③ 申込のときに記入していた 200 字の講演概要を廃止する。
- ④ 講演要旨は現在の「A4 用紙 2 枚」から「A4 用紙 1~2 枚」に変更する。また要旨の format を web 上にアップし、それに基づいて要旨作成を依頼する。
- ⑤ 第 57 回 において USB での配布を希望した人が 1/3 であったことを考慮して、今回も冊子・電子媒体両方用意をし、申込の際に選択をしてもらう。
- ⑥ 参加登録費は現状のままとする。
- ⑦ その他
 - (ア) 討論会運営に関して、万福裕造会員に幹事を依頼することが提案された。
 - (イ) 近隣機関に対しても協力者の打診を行うこととした。
 - (ウ) シンポジウムに関する規範について (日比野) : シンポジウム講師の参加登録費などの改訂が審議された。会員の参加費を「原則有料」と訂正することで承認された。本年度のシンポジウムから運用されることとなる。

(2) Clay Science の印刷所について (八田) : Clay Science の印刷費削減のために印刷所である学術図書印刷との打ち合わせをした。以下の件について審議され承認された。

- ① 表紙カラーを 2 色に変更する。それに伴うデザインの変更は河野編集委員長に一任する。
- ② アート紙ページを普通紙に変更する。

また、以下については継続して調査、審議することとなった。
- ① 別刷を廃止して投稿料に変更。
- ② 現在は発送費も含まれているが、別にした場合の費用の算出。
- ③ 「粘土科学」との同時発送による経費を節減。

(3) ホームページについて (八田) : 本会 web は常に最新の情報を提供するために、こまめなアップデートが必要であるが、1 人に負担がかからないようにそれぞれのセッションで運営できるような方法を考えている。また web は必要不可欠なものであるので経費をかけてでも充実させたいのとの提案があった。

3. その他

(1) 法人化については今後も審議していく。

(2) 以下の研究グループ設立趣意書が提出され、承認された。

「粘土科学若手の会」、「粘土鉱物を利用したナノ構造機能材料研究グループ」

以上